

# Rainbow Times

## 平成 26 年度研修のご案内

センターでは、現場のニーズや研修後アンケート等様々なご意見を踏まえ毎年研修を策定しています。平成 26 年度は、母子生活支援施設職員を対象にした研修を新設いたします。ここでは、新設研修とテーマ別研修についてご案内いたします。

### <新設研修>

**「母子生活支援施設職員指導者研修」(11月)** 対象：母子生活支援職員で児童福祉施設経験 3 年以上の方  
母子生活支援施設には、DV 被害を受けた母子や虐待体験をもつ母親が増え、母子それぞれが心的課題を抱え、かつ母子関係にも困難な課題を抱えたケースが少なくありません。母子生活支援施設は他の児童福祉施設種別にはない特殊性と、独自の専門的アプローチが求められています。また、参加希望者が年々増加している状況を鑑み、母子生活支援施設のみを対象とした研修を新設いたします。

### <テーマ別研修>

平成 26 年度のテーマ別研修は以下の 2 本です。研修では、各テーマについて広く・深く考える機会となるようにプログラムを企画しています。対象機関は特に設けず、各機関で指導的立場にいる方を対象としています(経験年数 3 年以上、各機関 1 名)。

**「要保護児童の自立支援」(5月)** 要保護児童の子どもたちの自立支援は、単に経済的自立の獲得だけでなく、精神的・社会的自立、さらに、親になっていくことをも見据えた支援が必要となります。研修では自立支援の現状と課題を振り返り、今後に向けた示唆が得られるような内容とする予定です。

**「家族への支援—周産期の支援を中心に」(3月)** 「家族支援」は毎年引き継いでいるテーマですが、来年度は特に周産期に焦点をあて、新生児の死亡事例からの検討、妊娠期からの連続した予防的支援、早期母子関係構築に向けた支援等を取り上げる予定です。毎年地域に出向いて行う地域虐待対応合同研修は、「山形県：7月/滋賀県：10月」で行います。要保護児童対策地域協議会の調整機関職員及び児童相談所の市区町村支援担当者(児童虐待対応経験年数通算 1 年以上)を対象に、2 日間のプログラムです。(南山)



## 家出児童と追出児童 (Runaway & Throwaway Children) 帰る家の無い児童の生活と背景、米国

警察庁の報告(2013)によると、2012 年には 20,300 人の 19 歳以下児童について、行方不明者届けが出されており、成人も合わせて動機で最も多いのが家族関係でした。また、行方不明者が犯罪の加害/被害によって発見されるケースも多く見られるようです。

アメリカでは、5 人に 1 人が 18 歳までに家出を経験すると言われています。1992 年のある調査では、280 万人の児童が家出をしたという報告もされています。NRS は、家出/追出児童らについて、先行研究、公的な報告書/統計、同機関に寄せられた電話相談のデータなどをまとめ、報告書(2013)を出しました。

### NRS ; National Runaway Safeline

1971 年にアメリカシカゴで、若者の危機介入を目的として発足した機関。個人の寄付および、保健福祉省/児童家族サービス局の援助により運営。年間 10 万件以上の相談電話が寄せられている。

その中から、「家出/追出児童らの生活」について、また、「家出の動機・背景要因」についての研究結果を、ピックアップしてご紹介します。↓↓↓

### ☆家出した/追出された後の児童らの生活☆

- ◆過半数の児童の所持金は \$10 以下(Pergamit&Ernst,2010)
- ◆シェルター利用児童の 10%、ホームレス児童の 28%は、お金、食べ物、宿泊、薬物などを得るために性的行為を提供して生きている(J.Green,Ennet,&Ringwalt,1999)
- ◆生きるために性的行為を行う児童は、窃盗、暴行、身体的虐待の被害に遭いやすい(Sedlak et al.,2002)
- ◆シェルター利用児童の 30%が、薬物売買に関わる(Sedlak et al.,2002)

### ☆家出の動機・背景要因☆

- ◆75%の家出/ホームレス児童は保護者との関係が動機 (General Accounting Office,1989)
- ◆家出/ホームレス児童のうち 50%弱は、追出の体験があった(Sedlak et al.,2002)
- ◆家出/追出児童のうち 21%が身体的および性的虐待が背景にある(Hammer et al.,2002)
- ◆家出児童のうち 3 分の 1 が性的虐待、43%が身体的虐待の被害があった(Molnar et al.,1998)

児童達にとって、帰る家がないという状況は様々な危険を伴う状況です。犯罪に巻き込まれるなど、より深刻な問題のリスク要因の 1 つとして挙げられることが多いように思いますが、家出自体の予防も考えることが必要です。(山邊)

## JaSPCAN 信州大会報告

12 月 13-14 日、日本子ども虐待防止学会 (JaSPCAN) 信州大会が松本市で開催されました。今年の大会テーマは「One Child, One Life~安心して生きる、育つ~」でした。虐待死・介入・支援・予防…と幅広いテーマのプログラムが展開され、興味深いものが多数ありました。

センターでは情報の収集・発信の機会として毎年参加しています。今年もブース展示を行ったところ、多くの方が訪れてくださいました。また、分科会では「虐待対応における人材育成」の企画、「日本の子ども虐待防止制度・現在と未来」での報告を行いました。研究報告では「乳児院の専門的養育機能の向上と人材育成」「情緒障害児短期治療施設における性的問題への対応に関する研究」を報告しました。

- ★今年、いよいよ世界大会(名古屋)です!  
(2014 年 9 月 14~17 日)
- ★演題募集が始まっています (~2/28)。
- ★参加登録は 3/1 開始!  
HP をチェック!



<http://www.ispcancongress2014.org/>

H25 研修より申込方法を変更しています!

Fax での申込→インターネットによる申込  
詳しくは各研修の実施要項や HP をご覧ください。

情報発信の配信先アドレスの

変更・配信停止等ございましたら

[guest-1@crc-japan.net](mailto:guest-1@crc-japan.net) までご連絡ください。

企画・編集室(担当:南山)お気づきの点は下記まで…

〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 983 番地

子どもの虹情報研修センター

TEL : 045-871-8011 FAX : 045-871-8091 Email : [guest-1@crc-japan.net](mailto:guest-1@crc-japan.net)